

# 絵本に投影された自己像と共感性 (I)

## Self-image of college students projected in computerized picture-book reading

光田基郎<sup>† ‡</sup>  
Motoo Mitsuda

<sup>†</sup>大阪教育福祉専門学校・関西福祉大学

Osaka Technical College of Nursing and Welfare & Kansai Univ. of Social Welfare  
mitsuda@mopera.net

**概要:**光田(関西心'09-10,東北心'11-15)に引き続き、電算に録音・録画して幼児教育志望の学生に読み聞かせた絵本の登場人物に投影された聞き手のシャイネス、自己開示と社会的スキル取得への意欲と登場人物に対する共感的態度を指摘し、保育志望の大学生と上記の報告で述べた女子短大生、専門学校生との差を強調し、電算画面での絵本読み聞かせの理解と感じ方のモデル化・効率化の指針を模索した。  
キーワード: 絵本, シャイネス, 自己開示, 達成動機

**1. 目的・方法:**女子校出身者と共学の差としては共感性の下位技能である他者視点,感情移入と動揺の差が期待し得よう。この点の検討の際には,女子校出身者と共学の差としての共感性の下位技能である他者視点,感情移入と動揺の差が期待し得よう。この点の実験的検討の意図で、とりごえまり作「ハリネズミのくるりん」(文溪社)より,シャイなハリネズミのくるりんが母親の支援下で、すぐにくるりと丸くならない様に努力して他人に挨拶する練習を反復した結果、動物たちと友達になれた筋立て15画面を女性の声で読み聞かせる自作ソフトを用いて実習室画面で教育・保育専攻の大学1年生(男子18,女子144名)に読み聞かせた。次に(イ)自己開示,社会的スキル,シャイネスと対人不信尺度(不信,恥の意識の項を含む)23項,自尊心並びに自己不全感尺度と達成動機(例:他人との優劣を気にし過ぎるなど,心理測定尺度集,堀洋道編)8項を加えた「くるりん尺度」で学生各自の「くるりん度」及び、(ロ)絵本に描かれたくるりんになった気持ちで上記の尺度の評定を求めた他、(ハ)共感性尺度(三浦・上里'99,桜井'91)28項の5段階評定を求めた結果をプロマックス法で因子分析を試みた。

**結果と考察:**(イ)(a)上記の「くるりん度」の自己評定結果として,男性—女性間で変数の差が得られない結果を得た後,全員のデータについてさらに因子分析を試みた結果からF1(劣等感と自己不信),F2(消極性とシャイネス),F3(他者不信)及びF4(理想—現実の落差と不確実性)を指摘した(Cronbachの $\alpha=.86-.674$ )。(b)上記の変数相互間の相関関係の性差として,男性では上記のF1-F2間の相関係数値が有意( $r=.570$ )であり,無力感から消極的になる傾向を示唆し得よう。女性ではF1-F3( $r=.332$ ),F1-F4( $r=.344$ )及びF3-F4( $r=.325$ )の有意な相関係数値が得られた。以上より,自己不信と他者不信との相関と,他者不信とシャイネスとの相関は見られても自己不信とシャイネスとの相関が見られない点が男性との差であり,ここでは無力感ゆえに周囲に同調して自己像を回復する傾向を想定し得よう。これらの結果は,同一の課題で自尊心,達成動機,社会的

スキルと自己開示の4因子を得た保育士・幼稚園教諭養成課程の(秋田県内キリスト教系)女子短大生から得られた結果(光田,'15)とは対照的である。以上並びに下記(ロ)の共感性尺度の分析結果からは,共学の大学の女性は周囲の空気を読む態度が基本であり,女子校出身者は周囲への配慮よりも楽天的,自分の可能性と社会的スキルを認めて率直な意思表示と感情表現をためらわない態度(杉浦,'12)との対応をも想定し得よう。

(ロ)上記の方法(ハ)の共感性尺度得点の因子分析結果からは,上記(イ)のくるりん尺度の場合と同様に男女差は見られない結果を得た。次に全員のデータについて因子分析を3回反復した結果,F1(感情移入),F2(他人への積極的関心と理解),F3(多様性よりも調和を望む態度)及びF4(自分自身の意見と態度の維持)を指摘した(Cronbachの $\alpha=.702-.544$ )。これらの結果は,同一の課題で女子短大生の共感尺度得点の因子分析において緊急事態に直面した際の情緒的インパクト,感情移入,複数の視点での理解に至る柔軟性と他者の立場への配慮の4因子を得た結果とは対照的である。(ハ)(a)「自分自身でなく,くるりんの気持ち」での評定を求めた結果の分析結果は自己不信/劣等感,消極性,対人不信とシャイネスの4因子を算出し得たが,この結果も女子短大生では上記の社会的スキル不全と否定的な感情の因子に代えて自己開示と達成動機(例—難しい事も努力してやって見たい)の因子を得た結果とは対照的であり,達成動機,社会的スキルと自己開示の4因子を得た保育士・幼稚園教諭養成課程の(秋田・キリスト教系)女子短大生の「くるりん観」(光田,'15)とは異なる「くるりん像」を示す。(b)特に変数間の相関関係の男女差に関して,女性のみ自己不信と消極性との相関係数値が高い( $r=.426$ )結果を得た。(c)共分散分析して,くるりん度のF2(シャイネス)と共感性尺度F2(他者への関心)の各々の因子負荷の大きい項の相関係数値は男性で無相関,女性で負相関となる。(d)共感性を従属変数に,くるりん度(自己開示,所属感,他者不信と社会的スキル)を独立変数とした重回帰分析では,くるりんの社会的スキルの評価と対人不信,自己不信感の理解が共感性の下位技能である感情移入の説明変数となった。以上,共学専門学校の女性の判断は実務的・現実的でも周囲に同調すれば子どもへの包容性を欠く危険と,自尊心向上の必要性を述べ,幼児教育担当者の絵本内容理解とその差への注目した教授活動並びに,規則とデータのみが独り歩きしやすい電算利用における多面的思考の必要性を提言した。

**文献:**杉浦由美子2012女子校力.PHP.